



## アリス、ずっといっしょにいたいよ

五年 石田 慶

わたし達は三ヶ月前に新しい家族をむかえた。ジャックラッセルテリアのアリスだ。アリスは里親ボランティアから引き取った犬で、引たいはんしょく犬だ。8才なのに、今年の春まで子犬を産まされていたと聞いた。里親ほ集のアリスの紹介には、急性すい炎とじんぞう病がある、と書かれていた。病気だったら散歩には行けるのかな、お薬はどうなっているのかなと思ひ、ボランティアさんに聞いたら、治りようにはかなりお金がかかるらしく、本当は助けてあげたいけれどこの子は無理かもという話になった。でもわたし達家族はあきらめきれず、わたしはアリスがかわいそうで助けてあげたくて毎日泣いた。でも病気だからって見捨てることはできず、なやんだ結果、アリスを引き取るようになった。

アリスが来て何週間か経ったころ、病気の治りようのために病院に連れて行くと、かんぞうがんだとわかった。わたしは打ちのめされた。あんなに元気に新しい住まいをうれしそうにたん検していたのに、そのおなかに10センチのがんがあるなんて。それから苦しいお薬生活が始まった。お薬はつぶのまま飲んでくれないので、すりつぶして注し器で無理矢理飲ませているが、アリスにとってはストレスだと思う。わたしはととても辛い。いつもの薬の時間がたまらなくいやだ。アリスはその他

の時間に食べ物をねだったり、だっこされたり、インコをながめたりとおなかのがんが重くても家を歩き回っていた。今はそれもできなくなってきた。

ある日注し器をしてもらいに病院に行った。その日はめんえきを上げるための注し器と、だつ水しよう状のための点てきだつた。末期がんなのでもうこれしか手立てがないのだが、すがる思いで打っている。治りようが終わり家に帰ると、楽そうにトコトコ歩いていたので安心したが、夜になると急に体調が悪くなり、母はずつと起きてアリスをなでていた。お医者さんに連れて行くと、もうできることは何もないと言われ、わたしは悲しくてくやしかった。それでもアリスは今をけん命に生きている。

わたしはこう思う。ペットを飼う前によく考えてほしい。もしその子が病気になつてもちゃんと育ててあげられますか。お薬を必ずあげられますか。辛くてもそれをずっと続けることができますか。つまり責任をもって世話をできるかということだ。かん境が変わつてもどんな都合があつても、それを続けられる人にペットを飼つてほしい。やさしくいつまでも見守ってくれる人、ぎやく待しない人に。

アリスは8年間過こくな生き方をしてきた。でも今はわたし達と幸せになつてると信じた。これからもずっといっしょにいられたらいいのに。アリス、大好きだよ。